

令和 6 年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議（第 4 回）議事要録

1 日時 令和 6 年 11 月 21 日（木）午前 9 時 30 分～11 時 00 分

2 場所 むさしのエコ re ゾート

3 出席者 中西委員、木村委員、村井委員、野村委員、奈良委員、関口委員

4 議事要録

(1)はじめに

（事務局より資料 1 について説明）

- ・武蔵野市環境啓発施設運営会議(第 3 回)議事要録の確認を行った。

(2)開館からの振り返りについて

（事務局より開館からの振り返りについて説明）

- ・ボランティアサポーターの現状を教えてほしい。

⇒(事務局)登録は第 1 回環境の学校の卒業生を中心に 23 名。施設運営の補助を想定したが、4, 5 名のサポーターが自分に合う特定の事業を手伝う形で定着している。

- ・サポーターを市報やホームページなどで募集してはどうか。また、開館時に関わっていた団体へ、施設予約利用やワークショップ出展方法をレクチャーしてはどうか。

⇒(事務局) サポーターについて、改善できるところから取り組みたい。団体については連携会議を設けていたが、コロナ禍後、出席者が僅かで休止した。現在は団体等へ毎月メールを送付し、出展募集など団体活動の機会提供や情報共有を行っている。施設の活用方法について整理し情報提供するなど検討する。

- ・組織体制について、事業の一部を外部委託することは理解したが、どのような団体に、何年契約を想定しているのか。その際、市のスタッフなどの体制はどうなるのか。

⇒ (事務局)包括的に委託することと、最低でも 3 年間の複数年度、継続的に事業者に関わってもらえる形としたいが、複数年度契約を担保することが難しいので、検討が必要。事業者選定にあたっては、市民参加型施設として市民との関わりや重視する考え方なども評価対象とすることを検討している。スタッフの体制などについても併せて検討している。

- ・外部委託する場合、サポーター制度の確立、定着化の評価が重要。評価・分析は専門性が高く難しい分野。大きな目標を市で設置し、指標や収集、分析など専門性を要する部分を委託事業者から専門家に任せることも考えられるか。

⇒ (事務局)事業者選定時に、評価・分析について提案をもらうことを検討したい。

- ・事業の継続性から複数年契約することはできないのか。事業者選定方法によって所要期間は変わるか。

⇒(事務局)業務委託の場合、原則は単年度契約であるが、どのように継続性を担保できるのか、契約方法や事業者の選定方法について検討している。事業者選定は競争入札

が原則。企画提案を求めて総合評価するプロポーザルなどもある。当施設の事業では環境や環境学習の知識、ノウハウを持つ事業者をプロポーザル方式で選定している。入札に比べ、プロポーザル方式は事業者が提案内容を検討する必要があるため、事業者選定にかかる期間は長くなる。

- ・環境情報の集約・発信については、「むさしのキッズページ」を使って子ども向けの情報発信をしたら良いのではないかな。
- ・学校への出前授業について、様々な子どもたちのニーズに合わせた出前授業の一覧表などがあれば、学校が連携したいと思えるのではないかな。
- ・人員が不足している状況下で、施設がどんなことをするのか。
- ・サポーターについて、ふるさと歴史館では、毎年古文書講座でボランティアのなり手を育てて、整理の手伝いをしてもらっている。エコreゾートも同様に職員の業務を絞り、ボランティアが活躍できる体制を作るのはどうか。例えばアップサイクルで、様々な企業の廃材などを集め、仕分けし、ものづくり工房や学校などに供給するようなことが考えられるが、日常的にボランティアが動けるようなことがあれば、また新たな人が入ってくるのではないかな。

⇒(事務局)人員のほかに、施設のスペースや需要と供給のバランスを勘案する必要がある。周辺の学校にお話ししながら需要に応じて小規模に始めていくことが考えられるのではないかなと思う。

(3)その他

- ・事務局より、視察について、第17回むさしの環境フェスタについて説明した。

以上